

『アカデミア・数理情報編』創刊に寄せて

南山大学長 ハンス ユーゲン・マルクス

南山大学は、ここ数年、画期的な出来事を経験しました。まず1999年は、大学創立50周年にあたり、様々な記念行事を企画・実施しました。本学は、カトリックの「神言修道会」により1949年に設立されました。当初は文学部のみからスタートしましたが、その後、大学付置研究機関や新学部、新学科が次々と設置され、50年を経て5学部・15学科を擁する文科系総合大学へと成長したのです。しかし、その翌年の西暦2000年、南山はさらに新たな発展へのステップを歩み始めました。「瀬戸キャンパス」に、学際的な「総合政策学部」と理工系の「数理情報学部」を開設し、また「名古屋キャンパス」における既存学部を大幅に改編して、7学部15学科を擁する真の意味での「総合大学」に生まれ変わりました。

しかしながら、この大規模な教育組織の改革だけで、教育内容の質が高まるわけではありません。質の高い教育は、言うまでもなく質の高い研究に裏打ちされたものであるはずです。教育内容の充実は、個々の教員の旺盛かつ創造的な研究活動なくしては達成しえません。

本学には、この教員の研究活動を支援するシステムの一環として「南山学会」という組織がありますが、その活動の重要な一端を担うのが、本学の紀要『アカデミア』の編集・発行であります。本紀要は、これまで、研究分野を三つに大別して「文学・語学編」、「人文・社会科学編」および「自然科学・保健体育編」の3編を刊行してまいりました。しかし、上に言及しましたように、本年度、「数理情報学部」という南山初の理工系学部が発足しまして、これに伴い、従来の3系列ではカバーしきれない本格的な理系分野の研究発表媒体として、『アカデミア・数理情報編』を新たに設け、刊行する運びとなりました。

数理情報学部は、地球的規模で進展し続けるIT(情報通信技術)時代をリードするにふさわしい即戦力と情報モラルを身につけた人材を育成するために設置されました。この学部は、情報ネットワークシステムの構築能力を備えた情報通信技術者を養成する「情報通信学科」と、膨大な情報を分析・加工し、企業等の意思決定の支援を果たす情報アナリストを養成する「数理科学科」の2学科で構成されています。

始まったばかりのこの新しい領域での教育を今後ますます進展させ、21世紀社会に貢献できる人材の育成に邁進されますよう、関係スタッフの日ごろの研鑽に期待しておりますし、その成果としての『アカデミア・数理情報編』が、国内外の学会や産業界に大いに寄与されることを願ひまして、創刊の祝辞とさせていただきます。

2001年3月